

職業実践専門課程等の基本情報について

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|-----|--|------------|------------------------------------|----------|--------|--------|--|
| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | |
| 新潟ビジネス専門学校 | | 昭和53年12月22日 | | 学校長 荒井 英之 (住所) 新潟県新潟市中央区万代1丁目2番22号 (電話) 025-241-2131 | | 〒 950-0088 新潟県新潟市中央区万代1丁目2番22号 | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | |
| 学校法人国際総合学園 | | 昭和32年10月10日 | | 理事長 池田 祥護 (住所) 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565 | | 〒 951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士認定年度 | 高度専門士認定年度 | 職業実践専門課程認定年度 | | | | |
| 商業実務 | 商業実務専門課程 | イベントビジネス学科 | | 平成27(2015)年度 | - | 平成28(2016)年度 | | | | |
| 学科の目的 | 本学科は、イベントに関する知識やイベントの企画立案方法、広告制作の基礎知識などを学ぶと同時に、県内有数のイベント会社および商店街振興組合および広告制作会社と連携を結び、様々なインターンシップなどに参加することで、イベントを企画・運営し、効果的な集客ができる知識と技術を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 学科の特徴(取得可能な資格、中退率等) | 数多くの現場実習にて経験を積み、自ら動ける人材を育成。イベントの基礎知識を検定で取得し、人間力を高められるよう、挨拶や返事などの基本的なマナー教育を徹底。 | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | |
| 2年 | 昼間 | ※単位時間、単位いずれかに記入 | | | 561 単位時間 | 580 単位時間 | 786 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 | |
| | | | | | 単位 | 単位 | 単位 | 単位 | 単位 | |
| 生徒総定員 | 生徒実員(A) | 留学生数(生徒実員の内数)(B) | | 留学生割合(B/A) | 中退率 | | | | | |
| 40人 | 29人 | 0人 | | 0% | 0% | | | | | |
| 就職等の状況 | ■卒業生数(C) | | 21人 | | | | | | | |
| | ■就職希望者数(D) | | 21人 | | | | | | | |
| | ■就職者数(E) | | 18人 | | | | | | | |
| | ■地元就職者数(F) | | 14人 | | | | | | | |
| | ■就職率(E/D) | | 86% | | | | | | | |
| | ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) | | 78% | | | | | | | |
| | ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) | | 86% | | | | | | | |
| | ■進学者数 | | 0人 | | | | | | | |
| | ■その他 | | | | | | | | | |
| | (令和5年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | |
| ■主な就職先、業界等 | | (令和5年度卒業生) 小売業、各種サービス業、イベント会場施工管理業、フォトグラファー、WEBクリエイター | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | https://www.nbc.ac.jp/subject/info/ | | | | | | | | | |
| 企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) | (A: 単位時間による算定) | | | | | | | | | |
| | 総授業時数 | | | | | 1,927 単位時間 | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 | | | | | 330 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の授業時数 | | | | | 単位時間 | | | | | |
| うち必修授業時数 | | | | | 1,621 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 | | | | | 240 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 | | | | | 単位時間 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) | | | | | 180 単位時間 | | | | | |
| 企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) | (B: 単位数による算定) | | | | | | | | | |
| | 総単位数 | | | | | 単位 | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 | | | | | 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の単位数 | | | | | 単位 | | | | | |
| うち必修単位数 | | | | | 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 | | | | | 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の単位数 | | | | | 単位 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの単位数) | | | | | 単位 | | | | | |
| 教員の属性(専任教員について記入) | ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) | | | | | 0人 | | | | |
| | ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) | | | | | 1人 | | | | |
| | ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) | | | | | 0人 | | | | |
| | ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) | | | | | 1人 | | | | |
| | ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) | | | | | 1人 | | | | |
| | 計 | | | | | 3人 | | | | |
| 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 | | | | | 1人 | | | | | |

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国内イベントの市場規模は年々拡大している。今やイベントは万博やオリンピックなどの大規模イベントだけではなく、地域活性化のための市民イベントやスポーツイベントなどが各地で活発に行われるようになってきている。また、イベントのもつリアルコミュニケーションツールとしてのメリットに加え、従来型の広告手段だけでなく、近年はホームページ、SNS、動画といった

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①教育課程編成委員会は本校の教務部長のもとにおく。
- ②学科の教育課程の編成にあたっては教育課程編成委員会の意見を活用する。
- ③委員会の議長は本校教務部長等教育課程編成の責任者とする。
- ④授業・実習を依頼する企業の方を教育課程編成委員に任命する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月21日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-------------------|------------------------|----|
| 高井 俊幸 | 万代シティ商店街振興組合 専務理事 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | ① |
| 加藤 竜司 | 株式会社サウンドエイト 専務取締役 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | ③ |
| 佐藤 麻記子 | SATOMA ピーアール&デザイン | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | ③ |
| 藤井 貴志 | 新潟ビジネス専門学校 教務部長 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | — |
| 田中 史歩 | 新潟ビジネス専門学校 学科主任 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | — |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月11日 10:00～12:00

第2回 令和3年3月25日 10:00～12:00

第3回 令和5年12月25日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

インターンシップの現場実習の増加および充実を図るため、企業との連携および校内講演会等をカリキュラムに盛り込んでいくことを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

事前に受入担当者から事前説明を兼ねた授業を実施し、インターンシップの心構えとイベント運営スタッフの役割について指導を行ったうえで、企業連携実習に参加をさせる。企業連携実習では研修担当者の指導のもと、運営スタッフとして従事する。実務を通してイベント運営の流れを学び、現場ならではの判断やコミュニケーションを求められる場面を体験することを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

イベント現場における運営の流れや判断力、コミュニケーション力を身に付けるために、企業等が手配したイベントにインターンシップとして参加する。現場では研修担当者からの指導のもとイベント運営スタッフとして業務に携わる。研修担当者から指導を受けた点をレポートにまとめ、次回のインターンシップへの課題としている。インターンシップ後のレポートは学校側で取りまとめた後、研修担当者からレポートの最終ページにある最終評価表を記入してもらい、これを成績評価に反映する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 企業連携の方法 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-----------|--|------|------------------|
| イベント運営実習Ⅰ | ※【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを除く。) | | 株式会社 新宣株式会社 バウハグ |
| イベント運営実習Ⅱ | ※【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを除く。) | | 株式会社 新宣株式会社 バウハグ |
| 企画立案 | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | | サトマピーアール&デザイン |
| 広告制作 | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | | サトマピーアール&デザイン |
| | | | |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ① 本校の教員は専門分野において、最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されている。そのため、法人本部、学校内および外部機関との連携の下、職業の実務に関連した知識、技術および技能ならびに授業および学生に対する指導力などの修得・向上のための組織的な研修機会を確保する。
- ② 担当教員は企業に赴き、実地研修を受講することで、最新の知識、技術、技能の研鑽を積む。
- ③ 校務分掌によって定められた委員会がテーマを設定し、全教職員が参加する研究会を定期的、継続的に開催する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

| | |
|---|-----------------|
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容 | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容 | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容 | |
| ② 指導力の修得・向上のための研修等 | |
| 研修名: ハラスメント防止研修 | 連携企業等: 人事部 |
| 期間: 7月18日(木)14:00~16:00 | 対象: 専任教員1名 |
| 内容: パワハラにならない指導、心得について | |
| 研修名: ChatGPTの実践応用研修 | 連携企業等: 株式会社dott |
| 期間: 2024年7月31日(火) | 対象: 専任教員1名 |
| 内容: ICTに関する最新技術やトレンドを学ぶ機会を提供し、実際の業務で活用できるスキルを習得する | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容 | |

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

| | |
|--|---------------------|
| 研修名: LIVeNT2024 | 連携企業等: RX Japan株式会社 |
| 期間: 2024年7月3日(水) | 対象: 専任教員1名 |
| 内容: コンサート、演劇、各種ショーの開催に必要な機材・サービスが出展する展示会 | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容: | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容: | |

② 指導力の修得・向上のための研修等

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 研修名: 実践行動学Webセミナー | 連携企業等: 一般社団法人実践行動学研究所 |
| 期間: 令和6年11月19日(火) | 対象: 専任職員1名 |
| 内容: 教員に求められる「スクールコミュニケーション」のスキル向上のために | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容: | |
| 研修名: | 連携企業等: |
| 期間: | 対象: |
| 内容: | |

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・実践的な教育を行いながら学生個々のモチベーションアップを図る上で、デュアル教育の役割は大きいとの意見があった。デュアル教育を推進するにあたり、今年度新たに1コースを増やすとともに、既に導入をしている学科における課題点の洗い出しと、システムの構築を推進していく。
 ・よりスムーズな企業連携を図るために、学生ニーズと企業ニーズのマッチングや情報共有を進めていく必要があるとの意見があった。インターンシップ先、連携企業先とは実習日誌などでフィードバックを受けている他、密な連携を図るために実習先の訪問や教育担当者から意見を得る場を設けている。年々、インターンシップ先となる企業が増えている点から社会的にも意義のある教育カリキュラムと捉え、よりよい情報共有方法の構築を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (1) 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | (2) 学校運営 |
| (3) 教育活動 | (3) 教育活動 |
| (4) 学修成果 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (5) 学生支援 |
| (6) 教育環境 | (6) 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7) 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | (8) 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | (9) 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・実践的な教育を行いながら学生個々のモチベーションアップを図る上で、デュアル教育の役割は大きいとの意見があった。デュアル教育を推進するにあたり、今年度新たに1コースを増やすとともに、既に導入をしている学科における課題点の洗い出しと、システムの構築を推進していく。
 ・よりスムーズな企業連携を図るために、学生ニーズと企業ニーズのマッチングや情報共有を進めていく必要があるとの意見があった。インターンシップ先、連携企業先とは実習日誌などでフィードバックを受けている他、密な連携を図るために実習先の訪問や教育担当者から意見を得る場を設けている。年々、インターンシップ先となる企業が増えている点から社会的にも意義のある教育カリキュラムと捉え、よりよい情報共有方法の構築を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|------------------------|------------------------|-----------|
| 渡邊 信子 | Art税理士法人 代表社員 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | 税理士 |
| 佐藤 洋彰 | 株式会社 フュージョンズ 代表取締役 社長 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | 小売業・サービス |
| 加藤 竜司 | 株式会社 サウンドエイト 専務取締役 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | イベント会社経営者 |
| 渡邊 賢一 | 医療法人社団 阿賀歯科 阿賀町鹿瀬歯科診療所 | 令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年) | 歯科医師 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <https://www.nbc.ac.jp/zyouhou/>
 公表時期: 45504

授業科目等の概要

| # | #REF! | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|-------|------|------|---------------|---|---------|-------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ○ | | | 就職実務 I | 自己分析、企業研究、履歴書の書き方、マナーの基礎など就職活動に必要な知識を学ぶ。 | 1後 | 84 | 8 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 2 | ○ | | | Word実習 | 文字サイズやフォントの変更、表の作成・編集、作成した文書の印刷など、Wordでの基本的な操作方法を学ぶ。 | 1後 | 51 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 | ○ | | | Illustrator実習 | 高品質なイラスト・デザインを制作することが可能なデザイナーやイラストレーター必携のソフトを使用し技術を習得、検定取得を目指す。 | 1後 | 51 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 4 | ○ | | | 課外研修活動 I | 1年生が行事・イベントなどの課外研修を通して、協調性・感受性を磨く。 | 1通 | 79 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 5 | ○ | | | 簿記会計 | 小売業や卸売業（商業）における基本的な帳簿を作成でき、複式簿記の仕組みを理解し、損益計算書と貸借対照表を作成できる能力を養う。 | 1通 | 81 | 7 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 6 | ○ | | | マーケティング | マーケティングの基礎を学ぶ | 1前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 7 | ○ | | | 計算実務 | 電卓の使い方を理解し、早く正確に電卓操作を行い計算ができるよう演習を行う。 | 1後 | 45 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 8 | ○ | | | 基礎英語 I | 「スタディサプリ」アプリを活用して、eラーニング形式で進める。 | 1通 | 16 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 9 | ○ | | | 社会人常識マナー | 社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得し、チームワークの理論と実践を通して、ソフトウェア開発に必要な知識とスキルを身につけます。課題に取り組むことで、論理的思考力をプログラミングの能力を養成し、その能力を身に付けます。ビジネスマンとしての判断や行動、人間関係やマナー、話し方などビジネス社会の基本ルールを身に付けます。 | 1後 | 36 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 10 | ○ | | | プログラミング実習 | プログラミングの理論と実践を通して、ソフトウェア開発に必要な知識とスキルを身につけます。課題に取り組むことで、論理的思考力を養成し、その能力を身に付けます。ビジネスマンとしての判断や行動、人間関係やマナー、話し方などビジネス社会の基本ルールを身に付けます。 | 1後 | 33 | 1 | | ○ | | | ○ | ○ | |
| 11 | ○ | | | ビジネス実務マナー | 実習、座学を通じて、SNSの仕事に必要な知識を総合的に身につけ、企業のSNS運用、活用方法を自分で考えて設計することができる。 | 1前 | 42 | 2 | ○ | | | ○ | | | |
| 12 | ○ | | | SNS マーケティング実習 | 海外と日本との価値観の違いを知り、グローバル化する世界経済を捕捉することを目的として実施される海外研修とそのための事前・事後学習。 | 1通 | 57 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 13 | ○ | | | Excel実習 | Microsoft Excelを表計算、関数、グラフなど基礎的な操作を身に付ける。最終的に、サテファイExcel表計算技能認定検定3級取得 | 2前 | 72 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 14 | ○ | | | 就職実務 II | 就職活動を通じて得た課題を洗い出し、就職試験対策を実施する。内定後は就職後に必要となる業界知識や社会人としての考え方を学習する。 | 1前 | 48 | 3 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 15 | ○ | | | パソコン実務 | Excel、Wordの操作技術の応用編として、ビジネスで役立つビジネス文書や表計算による分析などができるようパソコン技術を習得していく。 | 2後 | 78 | 3 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 16 | ○ | | | ビジネス文書 | 仕事における情報の伝達や意志の確認のために作成される文書で、種類や目的、正しい敬語や簡潔さ、結論の先行など、読みやすく書くための基本を学ぶ。 | 2後 | 33 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 17 | ○ | | | 課外研修活動 II | 1年生が行事・イベントなどの課外研修を通して、協調性・感受性を磨く。 | 2通 | 52 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 18 | ○ | | | #REF! | 「スタディサプリ」アプリを活用して、eラーニング形式で進める | ## | ## | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 19 | ○ | | | #REF! | 高品質な画像作成や画像加工をすることが可能なデザイナーやイラストレーター必携ソフトを使用し技術を習得、検定取得を目指す。 | ## | ## | 3 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 20 | ○ | | | #REF! | 自身の事業計画書作成や、コンペで使用するPowerPointを利用し、作ってプレゼンできるように授業です。 | ## | ## | 2 | | ○ | | ○ | | | |
| 21 | ○ | | | 基礎英語 II | 顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスを学ぶ。 | 2通 | 16 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 22 | ○ | | | Photoshop 実習 | イベント企画から実施、運営段階までの幅広い基礎知識を体系的に学ぶ。また、イベント従事者を企業等から招聘し、講演会を開催するなどして最新のイベント事情についても理解を深める。 | 2後 | ## | 6 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 23 | ○ | | | プレゼンテーション実習 | 学生自らがイベントを企画・計画し、実施に至るまでの準備や手配を実習を通して学ぶ。また、学生が企画・計画したイベントについて運営・実施を行う。 | 2後 | 72 | 6 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 24 | ○ | | | グローバルマーケティング | 企業等と連携しイベント運営のインターンシップを実施。現場の様子や仕事の流れを確認・理解することで職業観の醸成を図る。 | 2後 | 33 | 6 | | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| 25 | ○ | | | イベント概論 I | Adobeプレミアを使用し、動画制作の基礎から編集までの技術を学ぶ。 | 1通 | 84 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 26 | ○ | | | イベントプランニング I | 1年生でのイベントプランニング Iでの課題を踏まえ、自らがイベントを企画・計画し、より完成度の高いイベントの実施に向けて準備や手配を行う実習。 | 1前 | 48 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | |

